

●農薬希釈表

農 薬 の 調 整 早 見 表

希 釈 倍 数	希 釈 液 10 ℓ あ た り の 薬 量 (ml・g)	希 釈 倍 数	希 釈 液 10 ℓ あ た り の 薬 量 (ml・g)	希 釈 倍 数	希 釈 液 10 ℓ あ た り の 薬 量 (ml・g)	希 釈 倍 数	希 釈 液 10 ℓ あ た り の 薬 量 (ml・g)	希 釈 倍 数	希 釈 液 10 ℓ あ た り の 薬 量 (ml・g)
4	2,500	24	417	100	100	650	15.4	3,000	3.3
5	2,000	25	400	120	83.3	700	14.3	3,400	2.9
6	1,670	30	333	150	66.7	750	13.3	4,000	2.5
7.5	1,330	40	250	180	55.6	800	12.5	5,000	2.0
8	1,250	45	222	200	50.0	1,000	10.0	6,000	1.7
10	1,000	48	208	250	40.0	1,200	8.3	8,000	1.3
12	883	50	200	300	33.3	1,300	7.7	10,000	1.0
14	714	60	167	400	25.0	1,500	6.5	15,000	0.7
15	667	64	156	450	22.2	1,700	5.9	20,000	0.5
16	625	70	143	500	20.0	2,000	5.0	30,000	0.3
20	500	80	125	600	16.7	2,500	4.0		

(注) 本表は倍数を基準にしたおすすめ方です。例えば250倍液を作りたい場合は、10ℓ弱の水に薬量40ml（または40g）を加え、さらに少量の水を加えて希釈液を10ℓにして下さい。

Q
農薬の濃度は
濃いほうが
効果的？

A
例えば1,000～
2,000倍の指示が
ある場合は……

基本的には薄い濃度（2,000倍）で行うとむだが少なくおすすめです。規定濃度より濃くしても、効果が高まることは通常ありません。高温期の場合、散布し葉についた薬剤の水分が蒸発して高濃度となり、薬害が出やすくなります。殺菌剤は指定範囲の薄い濃度で葉裏までしっかりとかけてやります。殺虫剤は指定範囲の濃い濃度で直接ていねいにかけてと効果的です。除草剤は散布面積当たりの薬量を守ることが重要です。

Q
散布が面倒
なので数種類の
薬剤を混ぜて
やりたい

A
複数の薬剤を1度に
混合、散布しても、効果
が劣ることがあります。

複数の農薬を散布するなら、日をあけてから散布するほうが効果的です。特にアルカリ性薬剤と通常薬剤との混用は効果がなくなるだけでなく、薬害が出る場合もあるので避けてください。混ぜる場合は殺虫剤と殺菌剤など作用の異なる薬剤を、薄い濃度で混合するのが原則です。

Q
散布はいつ、
どのようにする
のがよい？

A
風の少ない、朝晩の
涼しい時間をねらって
散布してください。

散布量は薬液が葉先から落ちる直前程度としてください。薬剤の溶かし方にムラがあると、濃度障害が出る場合があります。混合してから薬液を長期保管せず、使う分だけその都度作ります。

Q&A

皆様へ

農薬取締法が改正され

平成15年3月10日施行

農薬の安全な使用が法律で義務付けられました

農薬を使う時は、農薬ラベルに書かれた情報をきちんと守りましょう！

その1

農薬の使用基準の設定

(使用者が遵守すべき基準を定め、この基準に違反して農薬を使用してはならない。)



作物、使用時期・回数、使用方法など、登録内容以外の用途に使用すると、法律違反となります。
もちろん、無登録農薬の使用も禁止です。
(農耕地には農耕地に登録のある農薬を使いましょう)

その2

法律違反の罰則の設定

(これまで無登録の農薬と知りながら使用しても罰則がありませんでした。)

以下のように懲役刑又は罰金が課せられます。

・3年以下の懲役
又は100万円以下の罰金

登録のある農薬を正しく使って信頼される農産物づくりを！

○農薬の使用状況などの生産活動を日誌（記帳様式）に記入しておきましょう！

JAグループ佐賀・JA